

令和５年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書 (P)
款	項	目		
5	1	4	土地改良費	280

部局名	都市整備部
課 名	整備課

I：事業概要

施策事業名	土地改良
事業目的	土地改良施設の維持管理や改修及び耐震対策
事業内容	●全体計画 ○耕作に必要な不可欠な水の確保や、農地を洪水や湛水から守る ●主な事業内容 ○土地改良（排水）事務 ・土地改良排水施設及びため池の管理事務 ○土地改良施設改修 ・緊急農地防災事業（県費） 成沢川地区 ・県単独土地改良事業（県費） 五ヶ村地区、半ノ木川地区、羽黒新田地区 ・愛知県土地改良事業団体連合会負担金 ・愛知県が行う防災ダム事業等の一部負担金 耐震調査が行われたため池のうち対策必要と判定された池の耐震補強工事等の実施 平谷第一池地区、北洞南池地区 豪雨に対する越水被害対策の実施 入鹿上用水地区、丹羽排水地区 ●主な決算の内訳 ○測量実施設計委託料 24,924,900円 ○土地改良施設改良工事請負費 41,580,400円 ○愛知県土地改良事業団体連合会負担金 843,000円 ○防災ダム事業負担金 14,282,256円
事業の 成果・効果	成沢川地区及び五ヶ村地区外において土地改良施設の改修により、施設の機能確保を図った。また、平谷第一池地区外において、耐震対策が必要と判定されたため池の耐震補強工事等により、耐震化を図った。

II：個別事業内訳 (単位：千円) (見直し・点検進捗評価は4段階)

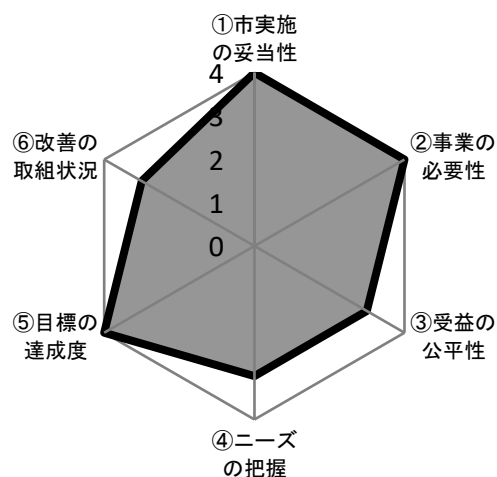
事業名	決算額	財源内訳		一般財源 の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信 ・共有化	業務適正化
土地改良（排水）事務	663	0	663	100%	3	3	3
土地改良施設改修	81,630	50,706	30,924	38%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	82,293	50,706	31,587	38%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費		R4決算	R5決算	R6予算
		105,915	82,293	142,767
財源内訳	国県支出金	50,361	38,006	64,099
	地方債	27,000	12,700	66,600
	その他	0	0	0
	一般財源	28,554	31,587	12,068
一般財源の割合		27%	38%	8%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	市が管理する法定外公共用物である。
②事業の必要性	4	土地改良施設を適正管理することにより、耕作地の水の確保はもとより、洪水抑制機能等の多面的効果が発揮され、市民の安心安全な生活に寄与している。
③受益の公平性	3	用排水路やため池は、農業用のみならず地域排水路や洪水調整機能を有しており、その効果は広範囲に及ぶ。
④ニーズの把握	3	受益者が申請人となっており、同意書をもって事業採択している。
⑤目標の達成度	4	年度当初の計画どおり事業を実施し、目標を達成した。
⑥改善の取組状況	3	ため池の規模、被害想定のおおきさ等により優先順位をつけて事業の平準化を図っている。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和5年度に見直しを実施した事項	防災重点農業用ため池の国補助事業の採択に向けて、劣化状況、地震及び豪雨耐性の評価等を踏まえ、年度計画の見直しを実施した。
令和6年度に見直しを実施している事項	優先順位により、計画的な整備を進めていく。
今後見直しを検討する事項	県と事業調整を行い、計画的な整備を推進していく。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和5年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
土地改良施設の老朽化が進んでおり、施設の長寿命化に向けて農業従事者との連携・協働が必要である。	地元要望に対し、事業の適正な選択が必要であるため、十分な現地調査と土木常設員のヒアリングなどにより公平に事業を実施する。また、県と連携し、防災ダム事業等を推進し、ため池の耐震性能向上を図る。

令和５年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)	部局名	都市整備部
款	項	目			課 名	整備課
7	2	2	道路新設改良費	302		

I：事業概要

施策事業名	道路新設改良
事業目的	地元要望等に基づき、身近な幹線道路及び生活道路の整備を行うことにより、安心・安全で快適な生活環境の充実を図る。
事業内容	●全体計画 ○地元要望等に沿った事業展開の実施 ●主な事業内容 ○狭あい道路整備（市道羽黒西４５号線） 測量実施設計 L=130m ○市道羽黒前原台線整備 橋梁撤去工事 ○市道羽黒東５０号線外道路整備 道路改良工事 L=92m ○市道犬山３９５号線歩道整備 道路改良工事 L=140m ●主な決算の内訳 ○狭あい道路整備（市道羽黒西４５号線） 測量実施設計委託料 13,865,500円 ○市道羽黒前原台線整備 橋梁撤去工事請負費 28,987,200円 ○市道羽黒東５０号線外道路整備 道路改良工事請負費 10,013,300円 ○市道犬山３９５号線歩道整備 道路改良工事請負費 21,499,200円
事業の成果・効果	地元要望等に基づき、市道羽黒西４５号線（狭あい道路）では測量実施設計を実施し、市道羽黒前原台線（星和橋）では橋梁撤去工事を実施し、市道羽黒東５０号線外及び市道犬山３９５号線では道路改良工事の実施により、地域の生活環境の改善を進めた。

II：個別事業内訳 (単位：千円) (見直し・点検進捗評価は４段階)

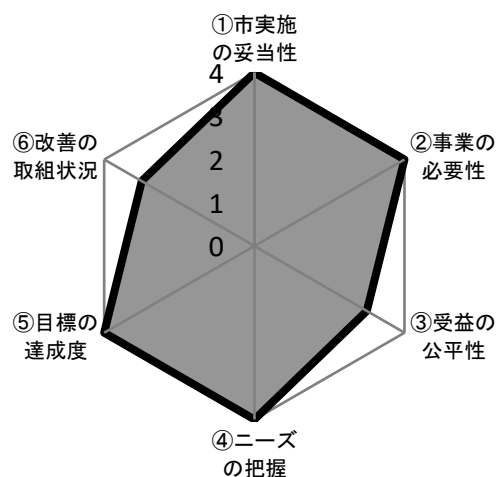
事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務適正化
狭あい道路整備	14,598	14,598	0	0%	3	3	3
市道羽黒前原台線整備	28,987	15,445	13,542	47%	3	3	3
市道羽黒東５０号線外道路整備	11,626	11,626	0	0%	3	3	3
市道犬山３９５号線歩道整備	21,499	12,700	8,799	41%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	76,710	54,369	22,341	29%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費		R4決算	R5決算	R6予算
		255,414	76,710	107,325
財源内訳	国県支出金	78,378	32,555	31,780
	地方債	74,100	16,400	16,200
	その他	6,351	5,414	12,444
	一般財源	96,585	22,341	46,901
一般財源の割合		38%	29%	44%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	地元要望等に基づき、生活環境の改善や交通安全の確保を行うための道路整備であり、市が実施する必要がある。
②事業の必要性	4	生活環境の改善、安全性の確保に加え、災害時などの緊急車両等の通行の確保など、地元からの要望に応える事業として道路整備を推進していくことが必要である。
③受益の公平性	3	地元の生活道路として、地域住民の要望に基づく事業であるが、不特定多数の住民が利用するため、公平性は高い。
④ニーズの把握	4	土木常設員を通じた地元の要望等に基づいて、事業を推進している。
⑤目標の達成度	4	年度当初の計画どおり事業を実施し、目標を達成した。
⑥改善の取組状況	3	地元からの要望を精査し、市民の生活環境の改善に資する事業効果の高い路線を選定し、コストの縮減に努めている。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和5年度に見直しを実施した事項	地元要望を精査し、事業効果の高い工事を実施した。
令和6年度に見直しを実施している事項	地元との調整を緊密に図り、より事業効果の高い路線の道路改良を推進していく。
今後見直しを検討する事項	早期に事業調整を行い、より事業性や効果が高い路線の絞り込みを行い、計画的に道路改良を推進していく。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和5年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
地元からの要望が多様化しており、地権者や隣接者の意識が変化してきている中で、交渉等の難易度が上がっている。	事業の実施にあたり、地元や地権者等と事前に調整を図ることにより事業の絞り込みを行い、より事業効果の高い路線の整備を推進していく。

令和５年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)	部局名	都市整備部
款	項	目			課 名	整備課
7	2	3	橋梁維持費	304		

I：事業概要

施策事業名	橋梁長寿命化
事業目的	道路法で定められる５年に１回の橋梁点検を実施する。 損傷度、重要度の観点から優先度が高い橋梁の長寿命化対策を行う。
事業内容	●全体計画 ○橋梁長寿命化修繕計画に基づき点検及び長寿命化修繕工事を実施する ●主な事業内容 ○橋梁長寿命化点検業務委託（24橋） ○橋梁長寿命化修繕設計（奥入鹿橋、登校橋、富ヶ丘橋） ○橋梁長寿命化修繕工事（半ノ木6号橋、城屋敷橋、北野間橋） ○橋梁長寿命化点検名鉄負担金（天神歩道橋） ○道路橋定期点検支援愛知県都市整備協会負担金（天神歩道橋） ●主な決算の内訳 ○橋梁長寿命化点検業務委託料 10,345,500円 ○橋梁長寿命化修繕設計委託料 13,050,400円 ○橋梁長寿命化工事請負費 16,336,100円 ○橋梁長寿命化点検名鉄負担金 950,800円 ○愛知県都市整備協会負担金 5,221,084円
事業の 成果・効果	天神歩道橋外24橋の点検、奥入鹿橋、登校橋及び富ヶ丘橋の修繕設計、及び半ノ木6号橋、城屋敷橋及び北野間橋の修繕工事を実施した。

II：個別事業内訳 (単位：千円) (見直し・点検進捗評価は４段階)

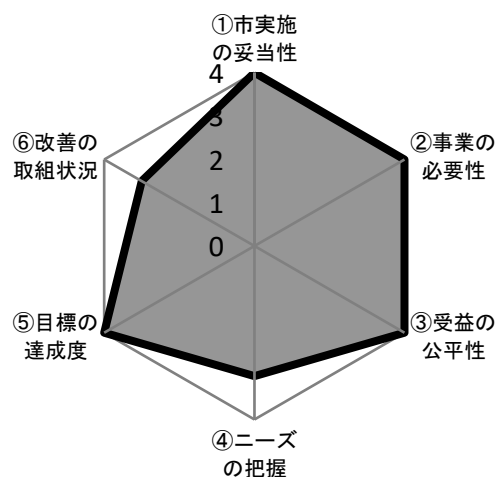
事業名	決算額	財源内訳		一般財源 の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信 ・共有化	業務適正化
橋梁長寿命化	46,716	24,706	22,010	47%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	46,716	24,706	22,010	47%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費		R4決算	R5決算	R6予算
		64,992	46,716	154,978
財源内訳	国県支出金	27,125	17,106	50,622
	地方債	5,600	7,600	63,900
	その他	0	0	0
	一般財源	32,267	22,010	40,456
一般財源の割合		50%	47%	26%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	道路法に基づき、橋長2m以上の市道橋梁について5年に1度近接目視による定期点検を行わなければならない。
②事業の必要性	4	道路法に基づき、橋梁を点検する事業であり、市民の安全・安心を守るため、必要性が高い事業である。
③受益の公平性	4	市内全域の対象橋梁について点検を行い、修繕を実施する事業であり、市民全般の安全・安心を守り、不特定多数の市民にサービスを提供する事業である。
④ニーズの把握	3	不特定多数の市民が利用する道路橋の予防保全をするものであり、義務付けられた点検と点検結果に基づく修繕を行うもので、道路基盤整備は大規模災害に備える取組みとして求められている。
⑤目標の達成度	4	年度当初の計画どおり事業を実施し、目標を達成した。
⑥改善の取組状況	3	道路法に基づく定期点検を計画どおり進めており、損傷度、重要度などの視点から適正に修繕を進めている。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和5年度に見直しを実施した事項	新規市道認定等に伴い、南金屋橋及び二ノ宮川橋が点検対象橋梁に追加となったため、橋梁長寿命化修繕計画の更新を行い、橋梁点検を実施した。
令和6年度に見直しを実施している事項	橋梁定期点検要領が見直しされたため、新しい基準に基づいて橋梁点検を実施していく。
今後見直しを検討する事項	市民の安全・安心を守るため、計画的かつ予防的視点で積極的に橋梁の長寿命化対策を推進する。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和5年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
橋長2m以上の全ての橋梁について5年に1回の近接目視を実施していく必要がある。損傷度の高い橋梁について、優先して修繕をしていかなければならない。	令和6年度からは橋梁点検が3巡目に入り、適正に修繕を進めていく。

令和5年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
7	3	1	河川総務費	304

部局名	都市整備部
課 名	整備課

I：事業概要

施策事業名	河川総務
事業目的	河川事業の実施に向けた取り組みを推進する。
事業内容	●全体計画 ○河川総務事務 ●主な事業内容 ○河川関係団体等負担金 ●主な決算の内容 ○旅費、消耗品費等 52,426円 ○河川関係団体等負担金 132,000円
事業の 成果・効果	各協議会の幹事会、総会に参加し、協議会として国、県に河川事業の陳情をした。

I I：個別事業内訳

(単位：千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

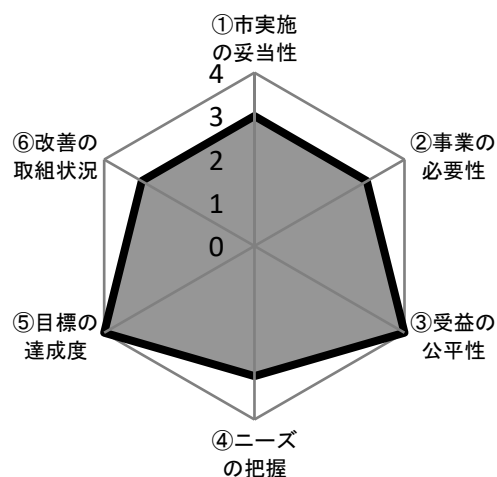
事業名	決算額	財源内訳		一般財源 の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信 ・共有化	業務適正化
河川総務事務	184	0	184	100%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	184	0	184	100%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費		R4決算	R5決算	R6予算
		162	184	265
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	162	184	265
一般財源の割合		100%	100%	100%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	治水対策及び河川環境の整備、改善事業の促進と拡充を図るため、市が加盟団体と共に、国、県に事業の必要性を継続的に説明していく。
②事業の必要性	3	治水対策及び河川環境の整備、改善事業の促進と拡充を図るため、市が加盟団体と共に、国、県に事業の必要性を継続的に説明していく必要がある。
③受益の公平性	4	治水対策及び河川環境の整備、改善事業の促進と拡充を図ることにより安心安全のまちづくりに寄与する。
④ニーズの把握	3	道路冠水軽減等の土木要望により把握している。
⑤目標の達成度	4	年度当初の計画どおり事業を実施し、目標を達成した。
⑥改善の取組状況	3	繰越金の多い協議会等においては、負担金の見直し等を提言している。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和5年度に見直しを実施した事項	繰越金の多い協議会等については、運営、事業等の精査、負担金の見直し等を進めている。
令和6年度に見直しを実施している事項	繰越金の多い協議会等については、運営、事業等の精査、負担金の見直し等を進めている。
今後見直しを検討する事項	運営、事業等の精査、負担金の見直し等を進めていく。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和5年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
見直しを行うにあたっては関係市町村及び関係機関との調整が必要となる。	必要に応じ、関係市町村及び関係機関と連携や調整をしつつ、見直しを進めていく。

令和5年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)	部局名	都市整備部
款	項	目			課 名	整備課
7	3	2	河川改良維持費	306		

I：事業概要

施策事業名	河川改良維持
事業目的	愛知県が施工する砂防堰堤工事に伴い、流末水路を整備し、家屋への被害を抑える。
事業内容	●全体計画 ○県が施工する砂防事業に並行して、流末水路を整備する ●主な事業内容 ○排水対策 大門沢排水路整備工事 L=310m ●主な決算の内訳 ○河川排水路新設改良工事請負費 17,697,500円
事業の 成果・効果	大門沢において、県の砂防事業に合わせた流末水路の整備を実施した。

II：個別事業内訳 (単位：千円) (見直し・点検進捗評価は4段階)

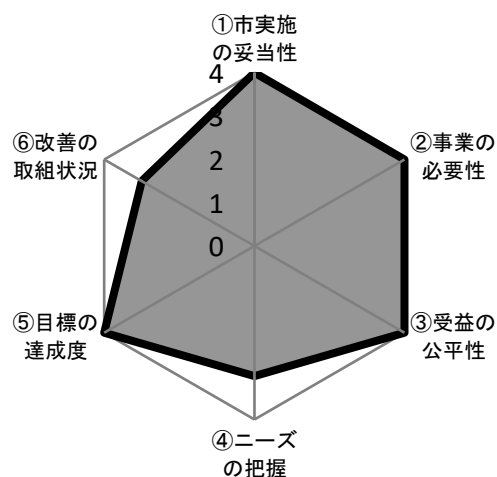
事業名	決算額	財源内訳		一般財源 の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信 ・共有化	業務適正化
排水対策	17,698	0	17,698	100%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	17,698	0	17,698	100%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費		R4決算	R5決算	R6予算
		7,095	17,698	54,322
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	40,500
	その他	0	0	0
	一般財源	7,095	17,698	13,822
一般財源の割合		100%	100%	25%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	砂防事業に関連する流末水路の整備であるため、市が実施する。
②事業の必要性	4	安全で安心して暮らせるまちづくりの観点から、浸水被害対策施設の整備は、事業実施が必須である。
③受益の公平性	4	豪雨時の道路冠水等の被害を軽減・防止する事業であり、広く市民生活の安心安全を確保する事業である。
④ニーズの把握	3	道路冠水軽減等の土木要望により把握している。
⑤目標の達成度	4	年度当初の計画どおり事業を実施し、目標を達成した。
⑥改善の取組状況	3	事業効果や緊急性により優先順位を検討し新規路線を採択している。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和5年度に見直しを実施した事項	県の砂防事業の進捗状況にあわせて、流末水路整備計画の見直しを実施した。
令和6年度に見直しを実施している事項	県など関係機関と調整を図りながら適切に事業を実施する。
今後見直しを検討する事項	事業効果や緊急性により優先順位を検討し新規路線を採択していく。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和5年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
近年、短時間に多量の雨が降る集中豪雨が頻発し、内水対策の重要性は高まっている。	事業効果や緊急性により優先順位を検討し事業を推進する。

令和5年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)	部局名	都市整備部
款	項	目			課 名	整備課
7	4	2	都市建設総務費	310		

I：事業概要

施策事業名	都市建設総務
事業目的	急傾斜地の崩壊による災害から市民の生命を保護するため、急傾斜地の崩壊防止のために必要な措置を講じる。 公共施設の適正な環境管理を推進することで、市街地及び近郊に潤いと憩いを感じる快適な生活空間を保全・創出する。
事業内容	●全体計画 ○市内の急傾斜地崩壊危険区域において、県が施工する急傾斜地崩壊対策事業の事業費の一部を受益者である市が負担する ○公共施設の適正な環境管理を推進する ●主な事業内容 ○都市建設総務事務 ・積算システム単価配信負担金 ・土砂災害応急復旧対策費補助金 ○急傾斜地崩壊対策 ・急傾斜地崩壊対策事業負担金 ○アメニティ協会 ・アメニティ協会運営補助金 ●主な決算の内訳 ○あいち土木技術・電算連絡協議会負担金 1,919,280円 ○土砂災害応急復旧対策費補助金 200,000円 ○急傾斜地崩壊対策事業負担金 6,999,960円 ○アメニティ協会運営補助金 2,946,107円
事業の成果・効果	県事業により、北大門地区及び西古券地区において急傾斜地崩壊対策測量調査を実施した。

II：個別事業内訳 (単位：千円) (見直し・点検進捗評価は4段階)

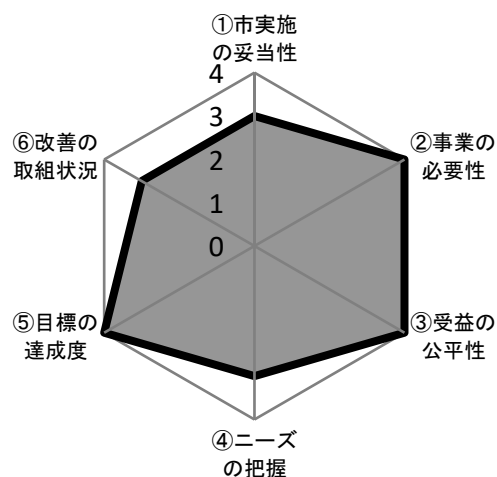
事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務適正化
都市建設総務事務	3,603	351	3,252	90%	3	3	3
急傾斜地崩壊対策	7,000	6,300	700	10%	3	3	3
アメニティ協会	3,007	343	2,664	89%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	13,610	6,994	6,616	49%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費		R4決算	R5決算	R6予算
		12,219	13,610	15,996
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	6,300	7,500
	その他	673	694	757
	一般財源	11,546	6,616	7,739
一般財源の割合		94%	49%	48%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	市民の生命を守る視点から、県及び市が連携して事業を推進する必要がある。
②事業の必要性	4	急傾斜地の崩壊による災害から市民の生命と財産を守る、非常に重要度の高い事業である。
③受益の公平性	4	急傾斜地崩壊対策工事によるハード対策とともに、防災マップなどを活用して土砂災害警戒区域を広く市民に周知することで、多くの市民の安全と安心を確保する事業である。
④ニーズの把握	3	土砂災害防止法に基づく危険箇所等について、地元からの要望等を踏まえつつ、対策工事を実施している。
⑤目標の達成度	4	年度当初の計画どおり事業を実施し、目標を達成した。
⑥改善の取組状況	3	ハード整備とともに、防災訓練、土砂災害応急復旧対策費補助金の周知など広報等を活用し、住民の危機意識向上に努めている。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和5年度に見直しを実施した事項	県と緊密な連携を図り、土砂災害対策の積極的な推進に努めた。
令和6年度に見直しを実施している事項	市民の安心・安全を守るため県と連携を強化し、新規の対策工事箇所の採択に向け、積極的に事業を展開できるように努める。
今後見直しを検討する事項	県との連携を強化し、対策工事のさらなる推進を図ると共に、啓発事業についてもより積極的に取り組みを進める。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和5年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
急傾斜地の崩壊による災害から市民の生命と財産を守る重要事業であるが、対策工事の規模が大きく、対策が必要な箇所の整備に時間を要する。	県に対して、対策工事の実施に向けた要望を積極的に行っていく。

令和５年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)	部局名	都市整備部
款	項	目			課 名	整備課
7	4	4	街路事業費	316		

I：事業概要

施策事業名	街路事業
事業目的	市街化通過交通の流入軽減対策及び市街地間の連絡のため、地域交通軸などの幹線道路を整備する。
事業内容	●全体計画 ○都市計画道路用地を適正に管理する ○蟬屋長塚線道路整備 令和5年度～ ○楽田桃花台線道路整備 令和5年度～ ●主な事業内容 ○都市計画道路管理 ・道路予定地除草 ・都市計画道路維持補修工事 ○蟬屋長塚線道路整備 ・道路基本設計 L=650m ○楽田桃花台線道路整備 ・道路詳細設計 L=850m ・道路改良工事 L=157m ●主な決算の内訳 ○都市計画道路管理 3,327,500円 ○蟬屋長塚線道路整備 ・基本設計委託料 11,251,900円 ○楽田桃花台線道路整備 ・実施設計委託料 24,020,700円 ・道路改良工事請負費 33,557,700円
事業の成果・効果	蟬屋長塚線は、道路整備に向けて基本設計を進め、楽田桃花台線は、現在の道路用地幅における整備に向けて、詳細設計及び拡幅工事を進めた。

II：個別事業内訳 (単位：千円) (見直し・点検進捗評価は4段階)

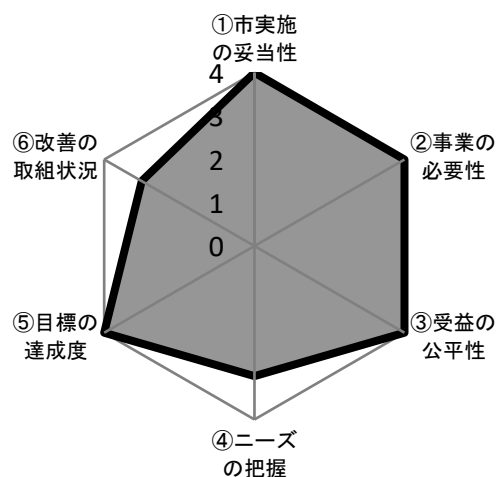
事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信・共有化	業務適正化
都市計画道路管理	3,327	97	3,230	97%	3	3	3
蟬屋長塚線道路整備	11,252	0	11,252	100%	3	3	3
楽田桃花台線道路整備	59,250	0	59,250	100%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	73,829	97	73,732	100%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費		R4決算	R5決算	R6予算
		214,114	73,829	181,508
財源内訳	国県支出金	77,193	0	0
	地方債	111,700	0	44,600
	その他	11,042	97	19,055
	一般財源	14,179	73,732	117,853
一般財源の割合		7%	100%	65%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	都市計画道路整備事業として、市が主体となって実施する事業である。
②事業の必要性	4	交通渋滞の緩和及び地域の発展に資する重要事業であり、早急に整備推進することが必要な事業である。
③受益の公平性	4	幹線道路の整備は不特定多数の市民が恩恵を受ける事業である。
④ニーズの把握	3	市民意識調査において、市内の道路の安全性や快適性について調査を実施しており、道路整備の推進について、市民ニーズは高い。
⑤目標の達成度	4	年度当初の計画どおり事業を実施し、目標を達成した。
⑥改善の取組状況	3	効率的に道路整備が進められるように努めており、用地についても課題を精査し用地買収を進めている。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和5年度に見直しを実施した事項	蟬屋長塚線は、鉄道交差構造について関係機関と協議を進め、都市計画決定どおり道路整備を進めることを決定した。
令和6年度に見直しを実施している事項	楽田桃花台線は、現在の道路用地幅による拡幅に向けて、整備促進を図っていく。
今後見直しを検討する事項	都市計画道路の未整備路線について、整備促進を図っていく。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和5年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
都市計画道路の未整備路線について、順次整備を進める必要がある。	継続して整備を推進していくため、関係機関と調整を図っていく。

令和５年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
7	4	5	土地区画整理費	316

部局名	都市整備部
課 名	整備課

I：事業概要

施策事業名	土地区画整理
事業目的	都市計画決定した地区について、施設整備を進め、低未利用地の活用により、良好な住環境を形成する。
事業内容	●全体計画 ○橋爪五郎丸地区において、地区計画決定した道路計画に基づき順次道路整備を進める ○五郎丸地区において、排水対策及び道路整備に向けた用地買収を進める ●主な事業内容 ○地区計画道路整備 ・道路改良工事 市道橋爪52号線 L=71m - 市道橋爪64号線 L=98m ・用地買収 市道橋爪72号線外 ○五郎丸地区道路整備 ・用地買収 市道犬山地区79号線外 ●主な決算の内訳 ○地区計画道路整備 ・道路改良工事請負費 17,446,000円 ・道路改良工事用地購入費 19,734,414円 ○五郎丸地区道路整備 ・道路改良工事用地購入費 4,722,846円
事業の 成果・効果	地区計画決定をした地区について、道路計画に基づき用地買収を進め、市道橋爪52号線外においては、道路改良工事を実施した。 五郎丸地区の市道犬山地区79号線外において、排水対策及び道路整備に向けて用地買収を進めた。

II：個別事業内訳 (単位：千円) (見直し・点検進捗評価は4段階)

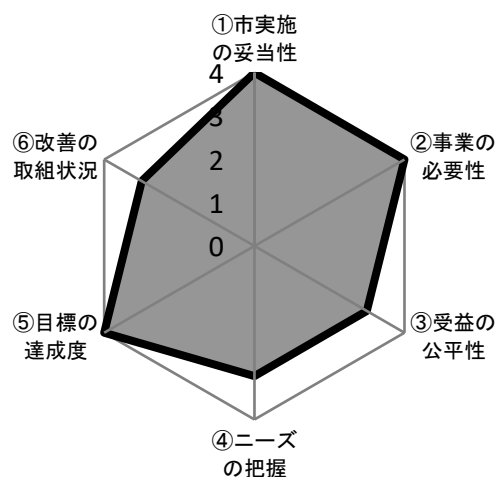
事業名	決算額	財源内訳		一般財源 の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信 ・共有化	業務適正化
地区計画道路整備	52,697	25,195	27,502	52%	3	3	3
五郎丸地区道路整備	5,730	5,730	0	0%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	58,427	30,925	27,502	47%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費		R4決算	R5決算	R6予算
		71,161	58,427	91,824
財源内訳	国県支出金	31,955	17,190	31,080
	地方債	28,800	10,500	42,300
	その他	0	3,235	3,286
	一般財源	10,406	27,502	15,158
一般財源の割合		15%	47%	17%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	地区計画決定に基づき、良好な住宅地の形成を進めるため、市が主体となって道路等の基盤整備を推進する必要がある。
②事業の必要性	4	都市基盤が未整備である地区計画決定をした地区の整備を進めることは、定住促進に資する重要な事業であり、推進する必要性は高い。
③受益の公平性	3	地区計画決定に基づき整備する事業であり、地域住民を対象としていることに加え、定住促進に資する事業として、多数の市民のサービス向上につながる事業である。
④ニーズの把握	3	市民意識調査においても、道路の安全性や快適性に対する市民ニーズは高く、市民からの問い合わせや要望等もあり、定住促進に資する事業として重要度の高い事業である。
⑤目標の達成度	4	年度当初の計画どおり事業を実施し、目標を達成した。
⑥改善の取組状況	3	住宅建築の促進につながる事業効果が高い路線を選定して路線整備を進めているが、今後更なる整備促進をしていくため、より積極的に買収を進める方針の検討を進めている。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和5年度に見直しを実施した事項	地区計画決定をした地区について、事業効果が高い計画路線の整備を重点的に進めた。
令和6年度に見直しを実施している事項	地区計画区域内の狭あい道路については、社会資本整備総合交付金を活用しつつ、地権者交渉等をより効率的に推進することで事業の進捗を図る。
今後見直しを検討する事項	早期の整備促進に向け、道路後退箇所については計画段階から地権者協議を進め、より効率的に事業用地の買収を行うことで、整備促進につなげていく。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和5年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
用地買収及び整備を積極的に行っているが、計画区域全体としては、依然として整備率は低い水準にある。	定住促進に資する計画路線の整備を促進するため、社会資本整備総合交付金を活用し、より積極的に用地買収を進める。

令和5年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)	部局名	都市整備部
款	項	目			課 名	整備課
7	4	6	公園管理費	316		

I：事業概要

施策事業名	桜並木管理
事業目的	桜を活かした快適な空間を保全・創造するため、桜並木の適正な維持管理を行う。
事業内容	●全体計画 ○道路及び河川敷の桜並木の適正な維持管理 ●主な事業内容 ○沿道（堤防）桜並木管理 ・桜並木の支障枝や枯枝の剪定、危険木の間伐、消毒及び樹木診断 ●主な決算の内訳 ○桜並木剪定業務委託料 18,161,000円 ○樹木診断事業委託料 1,430,000円
事業の 成果・効果	市内の桜並木について、診断の結果に基づき、適正な剪定・管理を行い、桜並木を保全することで、観光資源や潤いある歩行者空間に資する景観を保全するとともに、老木化したり、道路交通上支障となる桜については、剪定等を行い、安全の確保に努めている。

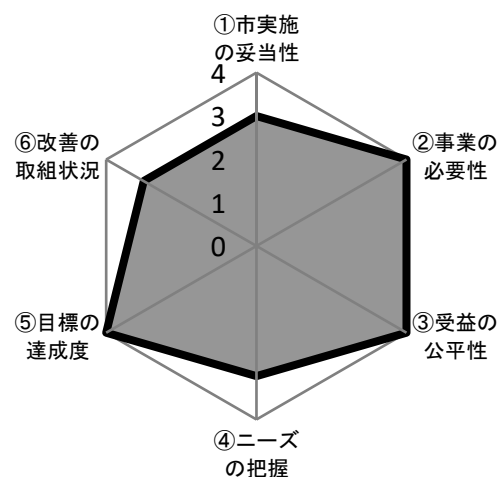
II：個別事業内訳 (単位：千円) (見直し・点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源 の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信 ・共有化	業務適正化
沿線（堤防）桜並木管理	19,889	3,414	16,475	83%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	19,889	3,414	16,475	83%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		R4決算	R5決算	R6予算
		19,178	19,889	21,341
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	16,140	3,414	0
	一般財源	3,038	16,475	21,341
一般財源の割合		16%	83%	100%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	市内の桜並木について、景観及び交通上の安全確保の視点から、市が主体として管理を実施していかなければならない。
②事業の必要性	4	観光資源や市民の憩いの場として、桜並木の景観を保全していく必要がある。加えて、老朽化した桜が交通安全上の支障となることから、安全・安心のまちづくりの観点からも継続が必要な事業である。
③受益の公平性	4	市民の健康づくりに資する遊歩道や犬山城周辺、五条川沿いの景観など、不特定多数の市民が利用し恩恵を受ける事業である。
④ニーズの把握	3	桜並木の保全・適正管理に対する市民要望は強く、市民要望等を踏まえつつ、取り組みを進めている。
⑤目標の達成度	4	年度当初の計画どおり事業を実施し、目標を達成した。
⑥改善の取組状況	3	桜樹木診断と連動して老木化した危険木の伐採等に加え、桜樹木の保全・延命化に資する剪定や交通支障木の剪定を進めている。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和5年度に見直しを実施した事項	老木化した危険木の伐採・剪定に加え、交通支障となる桜樹木の保全に資する適切な剪定に努めた。
令和6年度に見直しを実施している事項	桜樹木診断に基づく危険木の剪定管理に加え、桜樹木の保全に資する剪定管理について、より効率的かつ適切に実施できるよう、診断、剪定を実施している事業者と連携を緊密に行っていく。
今後見直しを検討する事項	桜樹木診断結果を基に実施する桜並木の管理委託業務をより効率的かつ適切にできるよう内容の精査を引き続き行っていく。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和5年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
桜並木については、老木化が進み、管理コストは増大していくことが想定される。 老木化した桜樹木について、安全性を確保しつつ、保全、延命化を図っていく必要がある。	桜樹木診断に基づき、効率的な管理に努めるとともに、老木化した桜樹木の保全、延命化に努めていく。

令和５年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)	部局名	都市整備部
款	項	目			課 名	整備課
10	1	1	農業用施設災害復旧費	398		

I：事業概要

施策事業名	農業用施設災害復旧
事業目的	農業用施設における災害発生時の対応を行う。
事業内容	●全体計画 ○突発的な自然災害において被害が発生した農業用施設の機能回復 ●主な事業内容 ○災害復旧測量調査委託 ・入鹿池 現地測量 ○災害復旧工事 ・入鹿池 既設擁壁保護工 ●主な決算の内訳 ○災害復旧関連委託料 1,650,000円 ○災害復旧事業工事請負費 3,905,000円
事業の 成果・効果	大雨による農業用施設災害復旧工事を実施した。

II：個別事業内訳 (単位：千円) (見直し・点検進捗評価は4段階)

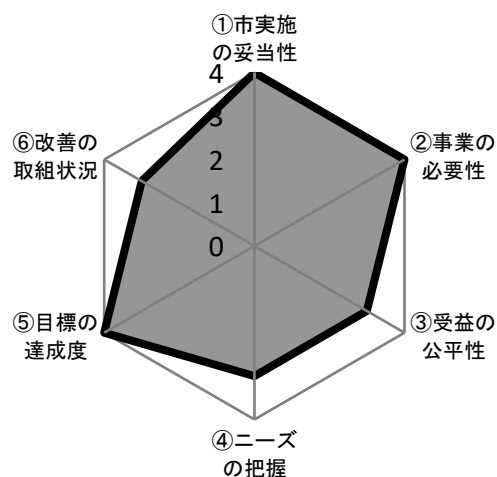
事業名	決算額	財源内訳		一般財源 の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信 ・共有化	業務適正化
農業用施設災害復旧	5,555	0	5,555	100%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	5,555	0	5,555	100%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費		R4決算	R5決算	R6予算
		9,763	5,555	24,000
財源内訳	国県支出金	4,620	0	11,400
	地方債	0	0	7,700
	その他	0	0	0
	一般財源	5,143	5,555	4,900
一般財源の割合		53%	100%	20%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	災害時に、早期に復旧し、農業用施設の機能回復を図る必要がある。
②事業の必要性	4	生活環境の改善、安全性の確保に加え、災害時の早期復旧など、地域からの要望に応える事業として推進していくことが必要である。
③受益の公平性	3	地域の生活環境を確保するため、地域住民の要望等を加味した事業であるが、不特定多数の住民への影響が大きいいため、公共性は高い。
④ニーズの把握	3	パトロールや通報、土木常設員を通じた地域の情報などに基づいて、事業を推進している。
⑤目標の達成度	4	災害発生時の対応を適切に実施した。
⑥改善の取組状況	3	災害発生時に早期の現場把握及び対応に努めた。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和5年度に見直しを実施した事項	災害発生時に早期対応が可能なように当初予算の確保に努めた。
令和6年度に見直しを実施している事項	災害復旧工事において、県補助金の採択に向けて調整を図った。
今後見直しを検討する事項	愛知県と早期に調整を図り適切な対応を求めていく。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和5年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
災害発生時のパトロールや通報、地元からの情報などにより災害箇所を把握するが、災害の状況によっては発見が遅れる場合もある。	災害発生時には地元と協力しながら災害箇所の確認及び対応を適切に進める。

令和5年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)	部局名	都市整備部
款	項	目			課 名	整備課
10	2	2	河川災害復旧費	398		

I：事業概要

施策事業名	河川災害復旧
事業目的	河川施設における災害発生時の対応を行う。
事業内容	●全体計画 ○突発的な自然災害において被害が発生した河川施設の機能回復 ●主な事業内容 ○災害復旧工事 ・五条川 倒木撤去工 ●主な決算の内訳 ○災害復旧事業工事請負費 1,595,000円
事業の 成果・効果	大雨による河川災害復旧工事を実施した。

I I：個別事業内訳

(単位：千円)

(見直し・点検進捗評価は4段階)

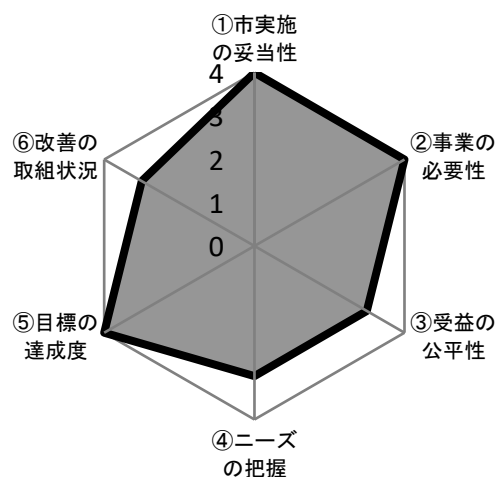
事業名	決算額	財源内訳		一般財源 の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信 ・共有化	業務適正化
河川災害復旧	1,595	0	1,595	100%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	1,595	0	1,595	100%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費		R4決算	R5決算	R6予算
		220	1,595	12,000
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	220	1,595	12,000
一般財源の割合		100%	100%	100%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	河川管理者として、災害時に、早期に復旧し、二次災害を防ぐ必要がある。
②事業の必要性	4	生活環境の改善、安全性の確保に加え、災害時の早期復旧など、地域からの要望に応える事業として推進していくことが必要である。
③受益の公平性	3	地域の生活環境を確保するため、地域住民の要望等を加味した事業であるが、不特定多数の住民への影響が大きいいため、公共性は高い。
④ニーズの把握	3	パトロールや通報、土木常設員を通じた地域の情報などに基づいて、事業を推進している。
⑤目標の達成度	4	災害発生時の対応を適切に実施した。
⑥改善の取組状況	3	災害発生時に早期の現場把握及び対応に努めた。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和5年度に見直しを実施した事項	災害発生時に早期対応が可能なように当初予算の確保に努めた。
令和6年度に見直しを実施している事項	引き続き、災害発生時の早期対応を目的として予算確保に努める。
今後見直しを検討する事項	県と早期に調整を図り適切な対応を求めている。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和5年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
災害発生時のパトロールや通報、地元からの情報などにより災害箇所を把握するが、災害の状況によっては発見が遅れる場合もある。	災害発生時には地元と協力しながら災害箇所の確認及び対応を適切に進める。

令和5年度 決算説明書 / 事業評価シート

企業会計名	決算書(P)
下水道事業会計	-

部局名	都市整備部
課 名	整備課

I：事業概要

施策事業名	下水道事業 資本的収支事業（雨水）
事業目的	ゲリラ豪雨等による道路冠水などの被害の軽減及び平成16年に特定都市河川浸水被害対策法が施行され、平成18年に一級河川新川流域が特定都市河川流域に指定されたことに伴う対策事業を行う。
事業内容	●全体計画 ○五ヶ村排水区 ・令和5年度 調整池工事 ・令和6年度～ 函渠工事 ●主な事業内容 ○雨水管路建設費 ・調整池整備工事 ○企業債償還金 ●主な決算の内容 ○雨水幹線築造工事請負費 314,696,400円 ○公共下水道債償還元金 69,039,649円
事業の 成果・効果	ゲリラ豪雨等による道路冠水などの被害軽減対策事業実施に向けて五ヶ村排水区において調整池の整備工事を実施した。

II：個別事業内訳 (単位：千円) (見直し・点検進捗評価は4段階)

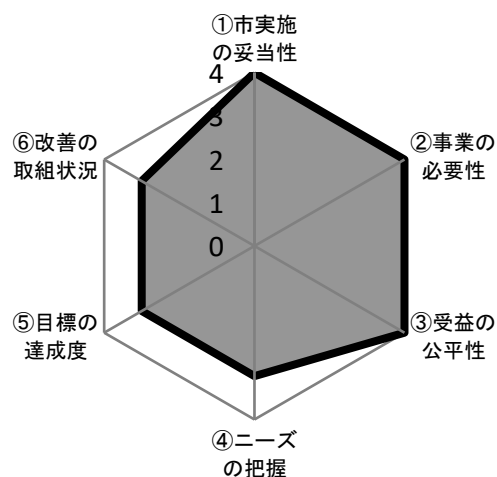
事業名	決算額	財源内訳		一般財源 の割合	見直し・点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		利便性向上	情報発信 ・共有化	業務適正化
雨水管路建設費	314,696	314,696	0	0%	3	3	3
企業債償還金	69,040	69,040	0	0%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	383,736	383,736	0	0%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況

(単位：千円)

事業費		R4決算	R5決算	R6予算
		402,730	383,736	290,018
財源内訳	国県支出金	164,000	145,200	90,000
	地方債	164,000	167,100	115,000
	その他	74,730	71,436	85,018
	一般財源	0	0	0
一般財源の割合		0%	0%	0%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	特定都市河川浸水被害対策法に基づく総合治水対策であり、市が主体となって実施する事業である。
②事業の必要性	4	安全で安心して暮らせるまちづくりの観点から、浸水対策施設の整備は、市民福祉の向上に資する事業であり、実施が必須である。
③受益の公平性	4	豪雨時の道路冠水等の被害を軽減・防止する事業であり、広く市民生活の安心安全を確保する事業である。
④ニーズの把握	3	道路冠水軽減の土木要望により把握している。
⑤目標の達成度	3	調整池整備工事に遅れが生じ、供用開始できなかった。
⑥改善の取組状況	3	事業の進捗状況に応じて、事業計画等の変更を進めている。

Ⅴ：業務の見直し・点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和5年度に見直しを実施した事項	関係機関との協議により、調整池吐き出し口の位置を見直し、調整池整備工事を進めた。
令和6年度に見直しを実施している事項	調整池整備を進め、供用開始をしていく。
今後見直しを検討する事項	調整池の整備を進め、必要に応じて今後の事業計画の見直しを行う。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和5年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
五ヶ村排水区については、事業費が大きくなるため、社会資本整備総合交付金を活用するなど、財源を確保する必要がある。	事業の進捗状況に応じて、適切な事業内容及び事業期間を設定し、交付金等により財源を確保していく。